国語科学習指導案

日 時:2005年10月31日(月)第5教時

児 童:御成小学校3・4年3名

3年 男子1名 女子1名

4年 男子1名 計3名

指導者: 0000

1. 教材名 3年「広い言葉、せまい言葉」
4年「アーチ橋の仕組み」

2. 教材について

<3年>

「広い言葉、せまい言葉」は、トンボやセミ、チョウなどを例に、言葉の上位概念、下位概念について初歩的な理解をさせ、それをもとに語彙の体系に関する意識づけを行うとともに、言葉への関心を育てることをねらいとしている。言葉には意味のうえで広い言葉とせまい言葉とがあることに気づくことは、子どもにとって言葉を見直すきっかけとなるに違いない。写真や図などを駆使してわかりやすく説明されているこの教材を通して、言語への関心を高め、ものの見方、考え方が広がるように指導していきたい。

< 4年>

論理的な文章を理解したり、書いたりするためには、優れた説明文を提示し、学習を進めることが基本となる。その点、「アーチ橋の仕組み」は、段落ごとの要点が明確であり、段落の構成も明快で、学習のベースとして適切な教材である。さらに、「ところで」「まず」「次に」「このように」「では」「そして」「最後に」「こうして」などの接続語が適切に使われている。これまでの段落学習をもとに、段落の要点をとらえ、段落相互の関係を明らかにすることによって文章全体の文意をつかむことができるように指導していきたい。

3. 教材の目標

<3年>

★言葉の意味の広がりについて、内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読む。

< 4年>

★アーチ橋の仕組みをとらえるために、中心となる語や文をおさえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む。

4. 児童の実態

<3年>

男子1名、女子1名の学年である。学習意欲が高く、二人で相談しながら学習を進めることができる。 しかし、理解が早い故に表面的な理解になりがちなので、じっくりと課題に取り組ませ、深い考えにま で至るような支援が必要である。

< 4年>

男子1名の学年である。課題に対して進んで取り組めるようになってきたため、学力は向上しているが、その日の体調に左右されることが多い。細かいところも気になる性格であるため、いったんつまづくなかなか立ち直れないことがあるので、そういった面に注意しながら指導を行っている。しっかりとしと見通しを持たせることが必要である。

5. 指導計画

<3年>「広い言葉、せまい言葉」 全10時間

時	学習活動	評価規準		
1	・学習の見通しを持つ。	関言葉どうしの意味の広さの関係について関心		
	・全文を読み、感想を書く。	をもとうとしている。		
2	・漢字練習、意味調べ			
3	・第1段落を読み、「広い意味を持った言葉」	話・聞文章の中からや自分で集めた「広い言葉」		
	としての「トンボ」を理解する。	「せまい言葉」の関係を理解して、発表や話し		
		合いをしている。		
4	・第2段落を読み、「広い言葉」としての「こ			
本	ん虫」について理解する。	読段落ごとに中心になる語や文をおさえて言葉		
時		の関係を正確に読んでいる。		
5	・第3段落を読み、「こん虫」「魚」「鳥」と			
	「動物」の関係について理解する。			
6				
7	・第4段落を読み、「生物」についての「広	宣文章全体における段落の役割を理解している。		
	い言葉、せまい言葉」の関係を理解する。			
8				
9	・選択型てびきの一方を選んで学習する。	書「広い言葉」「せまい言葉」の関係を理解して,		
		言葉を集めて説明の文章を書いている。		
10				

<4年>「アーチ橋の仕組み」全10時間

時	学習活動	評価規準		
1	・学習の見通しを持つ。	関アーチ橋の仕組みに興味関心を持ち、進んで中		
	・全文を読み、感想を書く。	心をおさえて読もうとしている。		
2	・漢字練習、意味調べ	言文中に出てくる地名や難語句を辞書などで調		
		べている。		
3	・大段落1を読み、1番目の疑問を解くた	書読み取ったことを整理してノートにメモして		
	めの実験を順序だてて説明する。	いる。		
4		読段落ごとに書かれていることをおさえて読ん		

5	・大段落2を読み、石のアーチ橋の作り方	でいる。
本	を順序だてて説明する。	
時		
6	・大段落3を読み、アーチ橋の歴史と現代	
	のアーチ橋との違いや同じ点について話し	
	合う。	
7	・「まず」「次に」「こうして」などのはたら	
	きについて考える。	
8	・三つの大段落に見出しをつけ、全体の文	
	章構成をとらえる。	
9	・選択型てびきの中からどちらかを選び、	話・聞アーチ橋の仕組みがわかるように、説明し
	学習する。	ている。
10		

6. 研究との関わり

<研究主題>筋道を大切にして考える子どもの育成

- ・既習事項を生かしながら、考えを進める。
- ・学習の「見通し」を大切にする。
- ・写真や図などと文章を照らし合わせる。

7. 本時の目標

<3年>

話・聞自分で作った図を発表することができる。

読第2段落を読み、「広い言葉」としての「こん虫」について理解することができる。

<4年>

書大段落2を読み、大事な言葉を見つけてノートに書くことができる。

読石のアーチ橋の作り方を模型を使って説明することができる。

8. 本時の展開

	教師の活動(3年)	児童の活動(3年)		教師の活動(4年)	児童の活動(4年)
課	・今日の場面の読み	・今日の場面の読み	習	・今日の場面の読みを	・今日の場面の読み
題	を練習させる。	を練習する。	熟	練習させる。	を練習する。
把					
握	・音読させる	・音読する		・漢字の学習をやらせ	・進めるところまで
				る。	進む。
	・課題を提示する。	・課題を把握する。			

見通し	よう。 ・シオカラトンボ、 ヒグラシ、モンシロ	・写真と照応しなが ら読む。			
	チョウの写真を指で おさえて確認しなが ら読ませる。				
課題解	・前段落で作ったト ンボの図と同じ物を セミとチョウで作ら せる。	・画用紙に書いて作っていく。	課題把握	・音読させる ・課題を提示する。 石のアーチ橋の作る	・音読する・課題を把握する。・順序を考えて、作
決			見通	ってみよう。 ・石のアーチ橋を作る	
	・作った図を発表させる。	・作った図を発表す る。(評価 : <mark>話・聞</mark> ・ 発表)	通し	・石のアーデ稿を作る 順序を確認させる。	葉でノートに書かせる。(評価:書・ノート)
	 ・「昆虫」という言葉 がトンボ、セミ、チョウよりも広い言葉 だということを確認 する。	の広さを理解する。		・書いたことを発表さ せる。	・書いたことを発表 する。
 	 ・昆虫の特徴が書い てある部分をノート に書かせる。	・教科書から抜き書きする。	決	・模型を使った石のアーチ橋の作り方を練習させる。	・教科書を読みなが ら、模型でアーチ橋 を作る。
まとめ	・図鑑でほかの昆虫も調べさせる。	・教科書にでていな いものを調べる。	交流・ま	・発表させる。	・発表する。(評価:読・見とり)
習熟	 ・調べたことを発表 させる。	・発表する。	とめ	・段落の最初にくる言葉に着目させる。	・「では」「まず」「最 後に」「こうして」の 使い方を確かめる。
	・次時の予告をする。	・次時の内容を知る。		・次時の予告をする。	・次時の内容を知る。